

募金者の性別が寄付行動に与える影響：
街頭募金活動を利用したフィールド実験*

弘田桃也^a 青木乃亜^b 森功多^c 河村帆香^d

要約

本研究では、募金活動の効率化を図り、活動開始後の短い期間で寄付金額目標を達成する一助とする目的で、募金者の性別が寄付行動に与える影響を調査した。街頭で募金活動を行うことで、データを集め、分析した。結果は、寄付者の性別・年齢層のどちらの組み合わせでも、女性募金者の方が男性募金者に比べて、多数の寄付を集め、平均寄付額も高かった。データを分析した結果と、街頭募金を実施する中で話しかけられた内容を合わせて考察し、募金者の性別が寄付者の寄付行動に与える影響を明らかにできた。

JEL 分類番号： C93, D64

キーワード：街頭募金、性別、寄付行動

*なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

a 弘田桃也 所属 高知工科大学 270524g@ugs.kochi-tech.ac.jp

b 青木乃亜 所属 高知工科大学 270395q@ugs.kochi-tech.ac.jp

c 森功多 所属 高知工科大学

d 河村帆香 所属 高知工科大学 270444d@ugs.kochi-tech.ac.jp

1. はじめに

世界には経済的・社会的困難を抱え、寄付を必要とする人々が存在する。それは、比較的豊かな国である日本においても同様であり、支援を必要とする人々は少なくない。一方で、日本ファンドレイジング協会（2024）によると日本の個人寄付は増加傾向にあるものの、2020年のアメリカやイギリスの個人寄付総額に比べると少なく、アメリカの20分の1にも満たない額である。名目GDP比でみた寄付割合は、日本は0.23%であるのに対してアメリカは1.55%、イギリスは0.47%と大きく差をあけられている。つまり、日本の寄付市場の更なる成長が望まれる。

本研究では、募金活動の効率化を図り、募金開始後より短い期間で目標寄付金額を集められるようにすることを目的として、募金者の性別が寄付者の寄付行動に与える影響を分析する。

そもそも、人々はなぜ寄付を行うのだろうか。寄付に関連した行動経済学な理論は、利己性と利他性という概念で整理されている。黒川（2024）は、独裁者ゲームなどの経済実験を通して、人々が利他的な部分を持っていることが度々観察されていると指摘している。寄付行動は2種類の利他性、つまり相手の効用が高まる事で自分の効用も高まる純粋利他性と、自分が相手のためにする行動それ自体から効用を得るウォームグローのから行われると述べている。

人々の寄付行動を分析し、その要因を分析した先行研究に基づけば、寄付行動は単一の要因ではなく、むしろ複数の要因で起きることが報告されている。Svenn et al.（1977）は募金を対象に募金者の性別や呼びかけ方法の違いが寄付率や寄付額に与える影響を実証的に調べており、直接的な呼びかけは非直接的な呼びかけよりも寄付率を高め、募金者の性別も条件に応じて寄付行動に影響することを報告している。

国内では博報堂（2018）が神奈川県内で募金活動を実施し、募金額や通行人数、参加者へのインタビューを基に分析して結果を公表している。日本人の募金行動を拡大するうえで重要なのは、募金先への共感・一体感、何か自分にいいことが戻ってくる手応え、寄付の取りつき易さの3要素であると報告した。また、募金箱の前を通り過ぎた人や寄付をした人に出来る限りインタビューを行い、寄付した理由やしなかった理由について調査した。インタビュー内容を見ると寄付した理由は様々で、応援や周りが寄付していたから等の募金者の行動を見て寄付行動が促進されていることを報告している。

本研究では、これらの先行研究での知見を参考にしつつ、フィールド実験を行う。本研究では、募金活動を行い寄付者から集金する側を「募金者」、寄付する側を「寄付者」と定義する。実験方法は、街頭募金を行い、募金者が寄付者の性別・推定年齢および寄付額を観察・記録する方法で行う。そして、募金者の性別が寄付行動に与える影響を分析する。

本稿の構成は次のとおりである。2では調査方法と調査項目を述べ、3ではフィールド実験により収集したデータを分析した結果を述べる。4ではデータの分析と先行研究を基に考察内容について述べる。5では本文のまとめと本研究の限界について述べる。

2. 調査

2.1. 調査方法

本研究では、高知市を中心部に位置するひろめ市場の入口周辺歩道において、能登半島地震災害義援金の街頭募金を実施し、寄付者の行動を観察・記録した。実施場所は、大橋通側入口周辺の歩道と、土佐女子中学高等学校側入口周辺の歩道の二か所である（図1参照）。調査期間は2025年8月25日から9月14日までの21日間であり、午前10時から午後2時の時間帯に実施した。合計11日間の実施で、延べ25時間の街頭募金活動が行われた。

募金活動は、日本赤十字社から借用した募金箱を携帯し、歩道に立って通行人に募金者で統一された個人を特定しない非個人的な呼びかけを行う形で実施した（図2参照）。

実験デザインは、募金場所、曜日、時間帯、天候による影響を排除するため、各日には必ず男女1名ずつの募金者を同時に配置して実験環境をバランスさせた。場所による効果を



図1 街頭募金実施場所

2.2. 調査項目

本研究では、寄付者の性別、推定年齢、寄付額の3項目を観察・記録した。なお、いずれの項目も寄付された際に、募金者の目視によって判断され、個人が特定できないように記録され、プライバシーに配慮して収集した。

高知工科大学の学生による能登半島地震災害義援金の募金を行っています。よろしければ募金お願いします。

図2 非個人的な呼びかけ

3.結果

本調査では、合計 303 名の寄付者から寄付行為等が行われた。しかし、寄付額が確認できなかった寄付者や日本円以外で寄付した寄付者ら 17 名を除外し、286 名（男性 79 名、女性 207 名）を分析対象とした。なお、本調査では同一人物が複数回寄付を行った可能性があるが、簡単化のため各寄付を独立の観測として扱った。また、推定 30 歳未満を若年層、30 代～60 代まで中年層、70 歳以上を高齢層として年齢層に分類した。

表 1 には募金者と寄付者の寄付額に関する記述統計を示す。男性募金者に対する平均寄付額は 223.09 円（SD=246.03）、女性募金者に対する平均寄付額は 304.41 円（SD=353.38）であった。募金者の性別ごとの寄付額合計は、男性募金者は 17,624 円、女性募金者が 63,013 円であり、女性募金者の方が寄付回数、平均寄付額、寄付額合計のいずれの項目でも男性募金者よりも多くの寄付を集めたことがわかる。

集計したデータを、募金者の性別による寄付者の寄付額に差はないとの帰無仮説を立て、t 検定を行った。検定結果は、募金者の性別による平均寄付額の差は有意であった（ $t(201.81) = -2.20$ 、 $p = 0.029$ ）。また、女性募金者は男性募金者に比べ、寄付された回数も有意に多く、寄付回数の面でも有意多くの寄付を集める傾向が確認された。

以上より、女性募金者は男性募金者に比べて、寄付 1 回あたりの寄付額だけでなく、寄付回数の面でもより多くの寄付を集める傾向が認められ、募金者の性別が寄付行動に影響を与える可能性が示唆された。

表 1 記述統計表

区分	N	寄付額合計(円)	平均値	標準偏差	最小値	最大値
募金者全体	286	80,637	281.95	328.87	1	2,296
女性募金者	207	63,013	304.41	353.38	1	2,296
男性募金者	79	17,624	223.09	246.03	10	1,000
女性寄付者	91	21,729	238.78	262.14	5	1,000
男性寄付者	195	58,908	302.09	354.58	1	2,296
寄付回数（総数）	286	80,637	281.95	328.87	1	2,296

表 2 では募金者の性別と寄付者の性別に関する記述統計を示す。

女性募金者と男性募金者を比較すると、女性募金者に対する寄付額は、寄付者の男女とともに男性募金者に対する寄付額を上回った。また、女性募金者に対する男性寄付者の標準偏差は 382.32、最大値は 2,296 と、他の組み合わせと比較して大きな差がみられた。このことから、女性活動者に対する男性寄付者には寄付を促進する効果があると考えられる。

表2 募金者の性別と寄付者の性別に関する記述統計

募金者性別	寄付者性別	N	寄付合計(円)	平均値	標準偏差	最小値	最大値
女性	女性	61	15,252	250.03	266.91	5	1,000
女性	男性	146	47,761	327.13	382.32	1	2,296
男性	女性	30	6,477	215.90	255.05	12	1,000
男性	男性	49	11,147	227.49	242.91	10	1,000

表3では募金者の性別と寄付者の年齢層に関する記述統計を示す。

募金者ごとの年齢層に注目すると、女性募金者は寄付額の多くが中年層からの寄付によるものであり、平均金額は他の年齢層よりも高い金額となった。また、男性募金者も女性募金者と同じく、中年層からの寄付が多かったが、全ての年齢層において寄付金額は女性募金者を下回る結果となった。

標準偏差に注目すると、女性募金者に寄付する高齢層は23人と高齢層に比べ、少ない人數だが標準偏差が全体の2番目に大きいことが見られた。このことから、女性募金者に寄付する高齢層は標準偏差が大きくなりやすい可能性が示唆された。

表3 募金者の性別と寄付者の年齢層に関する記述統計

募金者性別	年齢層	N	寄付合計(円)	平均(mean)	標準偏差(SD)	最小値(min)	最大値(max)
女性	高齢層	23	7,238	314.7	357.04	10	1,000
女性	中年層	144	48,479	336.66	378.81	1	2,296
女性	若年層	40	7,296	182.4	205.86	5	1,000
男性	高齢層	14	2,593	185.21	155.52	20	500
男性	中年層	49	13,432	274.12	287.10	10	1,000
男性	若年層	16	1,599	99.94	63.29	20	300

街頭募金を実施する中で、通行者や寄付者に話しかけられた事を以下の表4に列挙する。話しかけられた内容を見ると、博報堂(2018)のインタビューと同じような内容が見られた。

表4 街頭募金時に話しかけられた内容

暑いのに偉いね	息子・娘が高知工科大学の生徒だから
募金頑張ってね	私も募金いいですか？
少なくて申し訳ない	何の募金ですか？

4. 考察

得られたデータを募金者の性別と寄付者の性別・年齢層の関係で分析した結果、募金者に対する寄付者の性別・年齢層のどちらにおいても、女性募金者が男性募金者に比べ、多くの平均寄付額と寄付回数を記録した。これは、Svenn et al. (1977) の結果と整合的であり、改

めて募金者の性別による寄付者の寄付行動に与える影響が確認された。

街頭募金中に話しかけられた内容は、暑い中頑張っているね、募金頑張ってね、といった募金者に対して寄付者から応援されることが特に多く観察された。これは博報堂（2018）の研究でのインタビューでも見られた内容であった。このことから、募金者の性別が寄付者に与える効果だけでなく、募金者の行動に対する共感や親近感が寄付を促進していると考えられる。また、街頭募金を実施した8月下旬から9月上旬にかけては夏場で街頭募金を行う募金者の姿勢が共感をさらに強めたのではないかと考える。

以上より、街頭募金における寄付額と寄付回数の増加には募金者の性別が寄付者の寄付行動に与える影響と、募金者の行動に対する共感・応援の効果が合わさることで有意な差が確認できたと考える。

5.まとめ

本研究では、街頭募金における募金者の性別が寄付者の寄付行動に与える影響を分析した。その結果、女性募金者のもとで平均寄付額と寄付回数は、寄付者の性別、年齢層を問わず、男性募金者に比べて高くなる傾向があることが示唆された。また、街頭募金を実施するなかで話しかけられた内容も併せて考察することで、共感による影響も示唆された。

引用文献

- 博報堂, 2018. 行動デザイン研究レポート. <https://www.hakuhodo.co.jp/activation-design/asset/pdf/topics/05/20180907.pdf>
- 黒川博文, 2024. 分析者のための行動経済学入門. ソシム株式会社, 東京
- 日本ファンドレイジング協会, 2024. 寄付白書プラス 2024. <https://jfra.jp/wp/wp-content/uploads/2024/05/fb598bc8ceec769cba068d94c49e144.pdf>
- Lindskold Svenn, Forte A. Robert, Haake S. Charles and Schmidt K. Edward, 1977 The Effects of Directness of Face-to-Face Requests and Sex of Solicitor on Streetcorner Donations, The Journal of Social Psychology, 101:1, 45-51.